

# 郷土資料館だより

Vol.45 No.1  
2022.7.15

## 令和4年度富士・沼津・三島3市博物館共同企画展 「このへん道中いまむかし～富士・沼津・三島の観光～」開催！

### ●巡回スケジュール

- 三島 令和4年 7月16日(土)～10月 2日(日)  
 富士 令和4年10月 8日(土)～11月27日(日)  
 沼津 令和4年12月10日(土)～令和5年1月29日(日)  
 ※但し12月28日～1月3日は休館

### ●会場 郷土資料館 1階企画展示室

江戸時代、三島・沼津・富士の市域には東海道の宿場がありました。当時の旅日記や道中記には、今もお馴染みの名所や名物が登場しています。明治時代以降、鉄道の敷設など交通が発達すると東京から手頃な距離の観光地となりました。時代とともに変化し、積み重ねられていった観光資源が、地域の賑わいをつくってきたのです。

本企画展では三島・沼津・富士の旅と観光の歴史を紹介します。「観光」には「その土地の光(良いところ)を観る」という意味があります。本展を通じて地域の新たな魅力を発見していただければ幸いです。



### 《徒歩の旅》

江戸時代、幕府によって街道が整備されると宿場や沿道は往来する人々でにぎわい、多くの旅人が全国各地を巡りました。徒歩や馬の旅ではその道中も楽しみであり、街道沿いの寺社や名所・旧跡にも立ち寄り、名物の食べ物やその土地の名産品を楽しみました。

古来より三嶋大社の門前町として栄えてきた三島宿は、箱根越えの難所を東に控えた宿場町として多くの旅人が休泊し、にぎわいました。宿場の名物として河合家が発行する三嶋暦がとくに有名で、三島宿のみやげとして多くの旅人に買い求められていたようです。このほか宿場の西に位置する千貫樋は伊豆国と駿河国の境にかかる木樋で、三嶋大社とともに道中記(旅行案内記)などには必ず載っている名所のひとつでした。



### ■五街道中細見記 安政5年(1858) 大城屋良助著

江戸時代の携帯に便利なサイズで製本された道中案内書。五街道(東海道・中山道・甲州街道・奥州街道・日光街道)のほか主な脇街道も記載しており、主に東国を中心としている。また、著者の大城屋良助が東講(東日本を中心とした旅館組合)の講元であるため、その講に所属する旅籠や茶屋の宣伝を

兼ねたものとなっている。

特徴は全体を絵と記号を用いて示していること。山川、城などを背景として絵で描き、宿場や間村あいのむらなどの情報は記号を使うことで、旅人が必要とする街道沿いの情報をわかりやすく説明している。三島付近では富士山・愛鷹山・三嶋大明神(大社)・小浜池・千貫樋などが描かれている。

### 《鉄道旅行でお手軽に》

明治22年(1889)に東海道線が開通したことをきっかけとして、本格的に観光の時代がやってきました。それまでは江戸-京都間を2週間もかけて歩いていたのに、座ったままわずか1日で行くことができるようになったのです。旅行者は短時間で目的地に着くことができるようになり、より遠くの場所への旅行が可能になりました。

そんな東海道線の開通によって、新たな観光地が生まれた一方、衰退した地域もでてきます。三島は駅ができなかったばかりに栄えていた宿場から旅人の足が遠のき、さびれてしまいました。線路が御殿場を経由するようになったために三島に代わって沼津が東部の中心になったのです。明治31年になって長泉村に三島駅(現下土狩駅)を設置、同駅を始発とする豆相鉄道(現在の伊豆箱根鉄道)が開通したことで伊豆への温泉客の足が確保され、町は少しずつ活気を取り戻していきました。そして昭和9年(1934)に丹那トンネルが貫通し、待望の駅(現三島駅)が設けられたことで三島は伊豆の玄関口として発展し、今に至ります。



### ■観光の三島 昭和9年(1934)12月1日 三島町役場編

三島町役場によって発行された小冊子。現在の三島駅の開業にともない、増加が見込まれる観光客のためのガイドブックとして編纂された。中には写真がふんだんに使われており、「官幣大社三島神社」はもちろんのこと、「三島暦」や「明治天皇あんざいしよ行在所跡」、「三島女郎衆と其の俗謡そ」など三島の史跡・名勝・名物を中心に紹介する地誌的な内容となっている。

この小冊子以外にも三島駅開業のタイミングで観光パンフレットがいくつか出版されており、町民の期待の高さがうかがえる。

## 企画展「古代の伊豆国—国府と国分寺—」開催

●開催期間 令和4年10月15日(土)~令和5年1月29日(日)

●会場 郷土資料館1階企画展示室

飛鳥時代、唐(中国)から導入した律令制度にもとづいて中央集権的な国家体制の構築が進み、全国は畿内・七道に行政区分され、国・郡・里(郷)が設置されました。各国には国司(中央の役人)が派遣され、国衙(役所)を拠点として国内の統治が進みます。三島市域には、伊豆国の国衙が置かれ、伊豆国の行政の中心地として役所関連施設が整備されました。さらには国分寺・国分尼寺が建てられるなど、前時代とは異なる地方都市としての景観が整えられていきます。

本企画展は、国衙関連施設や国分寺跡などから出土した資料を展示し、律令制下の三島市域を紹介するものです。都から遠く離れたこの地域が、伊豆国の中心地としてどのような景観を呈していたのか、思いを馳せていただければ幸いです。



## 郷土教室・体験イベントの報告と予定

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。令和4年1月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内 容	参加者
1月15日(土)	機織り体験	裂き織りの体験 講師：ギャラリーあさひ 杉山洋子氏	8人
1月22日(土)	リリアン編み	毛糸で干支のトラをつくる	9人
2月 5日(土)	型染め体験	防染の技法を使ってオリジナルカードをつくる	中止※
2月23日(水祝)	遊んで学ぼう富士山デー	富士山の溶岩観察、富士山にちなんだカルタ	中止※
5月 5日(木祝)	こどもの日体験デー	コイノボリ・カブトの紙工作	95人
5月 7日(土)	古代のくらし	勾玉づくり、火おこし体験、土器当てクイズ	75人
6月 4日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり、三島宿の展示ガイド	14人

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、静岡県下へ蔓延防止措置適用のため。

## 郷土教室・体験イベントの報告と予定

日程	郷土教室	内 容
7月 9日(土)	江戸時代の三島宿	みしまの歴史をテーマにしたクイズ、三島宿の展示ガイド
8月 6日(土)	機織り体験	裂き織りの体験、要申込(先着順、定員10名、対象：小4以上)
	昔のあそび	昔なつかしいあそびの体験
9月 3日(土)	紙漉き体験	紙を漉いてオリジナルハガキをつくろう 協力：三島ゆうすい会

## 第2回 郷土資料館ミュージアム・フェスタの報告

- 日 時 令和4年3月5日(土) ●参加人数 28人 ●会 場 多目的室・3階常設展示室
- 開催内容
  - ・ドングリコマ・ストラップ&ブンブンゴマ&牛乳パック竹トンボの材料セットの配布
  - ・ミゴボウキの材料セットの配布
  - ・ことわざおみくじ
  - ・みしまの歴史クイズ
  - ・何かな?不思議な石たちクイズ
  - ・昔の“あいうえお”で遊ぼうクイズ

令和元年度にはじめて開催して好評を博したミュージアム・フェスタですが、翌2年度は感染症拡大の影響を受けて中止となり、令和3年度、一年ぶりに開催することができました。当初は10/5の開催を予定していましたが、感染状況を考慮して3/5に延期することとなり、延期した3月も県下の状況が安全とは言い切れなかったため、規模を縮小して開催することになりました。感染リスクを最小限にとどめるよう、当日は職員のみで参加者の対応にあたることとし、接触を減らすために工作用の材料セットとクイズ用紙の配布に限る形で開催しました。材料づくりと袋づめは、ボランティアさんたちが直前まで準備してくれたものです。材料セットを手にした皆さまには、おうちで自由に楽しんでいただけたものと思います。

## そよかせ学習

- 学習内容 体験学習 昔の道具の体験 ●受け入れ学校数 市内6校(中止8校)
- 館内見学 2階常設展示室の解説

本年度も市内・周辺市町の小学3年生の課外授業「そよかせ学習」の受け入れを実施しました。開催が集中する1月から新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が静岡県に適用されたため、予定していた学校8校が中止せざるをえなくなりました。1階多目的室では石臼・製麺機を実際に動かしてもらい、2階常設展示室では昔の職人についての話や、農家にあがって囲炉裏の役割、自在鉤・箱膳の使い方についての解説をしました。



## 三嶋大社の古文書をよむ 第15回

### ◆北条義時の古文書②～前号紹介の義時文書をめぐって～

**義時・時宗・高時** 前回紹介した北条義時書状をもう一度。右にあげた一覧表は、その義時書状に付けられた名称ですが、掲載する史料集ごとに異なりますね。発給者は義時・時宗・高時、年紀は元久2年(1205)、弘安4年(1281)、元応元年(1319)の3種。文書名も地頭職停止状・寄進状・書状・書下。なんだか混乱し

	文書名称	推定年	西 暦	掲 載 先	掲載年
①	北条時宗地頭職停止状	弘安4	1281	『静岡県史料』第1輯「三嶋神社文書」第8号	1932
②	北条時宗寄進状	弘安4	1281	『鎌倉遺文』第19巻 14410号	1980
③	北条義時書状	元久2	1205	『花押かがみ』第2巻 鎌倉時代1	1981
④	北条高時寄進状	元応元	1319	『鎌倉遺文』第35巻 27181号	1988
⑤	北条時宗書下	弘安4	1281	『静岡県史』資料編5中世1、1370号	1989
⑥	北条時宗地頭職停止状	弘安4	1281	『三島市誌』増補 資料編Ⅱ	1992
⑦	参考：瀬野精一郎氏「『鎌倉遺文』無年号文書の重複について」を発表				1994
⑧	北条義時書下	元久2	1205	『静岡県史』資料編8中世4、付録1中世資料編補遺 20号	1996
⑨	北条時宗書下	弘安4	1281	『北条氏発給文書の研究』「北条時宗発給文書目録」	2019

※⑦：②と④が同一文書であること、義時文書であることを確認

ています。特に②と④は同じ『鎌倉遺文』に、それぞれ時宗、高時の文書として重複掲載されています。この誤りは⑦瀬野精一郎氏の研究で指摘されましたが、活字としては残ったまま。⑤と⑧の『静岡県史』では、⑤で時宗としたものを、⑦瀬野氏の研究に則って⑧の別冊に再掲載し義時と訂正しますが、これも別冊冊子を見なければ確認できません。結局、最新の研究書⑨『北条氏発給文書の研究』でも、義時ではなく時宗文書として一覧に含められました。これらの誤認は、大正から昭和始めに編纂された①『静岡県史料』で時宗としたことに始まり、現在に至ったものです。③『花押かがみ』では正しく義時文書としたのですが、注目されることなく、大方は時宗文書として史料集に残り続けています。なお④で高時とした経緯は不明です。

**書下か書状か** 次は文書名について。武家文書の分類では、右筆や奉行人が発給主体の指示を受け発する奉書形式の文書と、発給主体が直接発する直状形式の文書(この場合義時が直に発する)とに区分する場合があります。「書下」と「書状」は直状形式に含まれます。「書下」は末尾が「状件の如し」などの文言で終わり、年月日が記され、永続的な効力をもつ文書と位置づけられます。義時の場合これを自領や守護としての職務案件で用いたようです。「書状」は末尾を「謹言」などで結ぶことが多く、年あるいは年月までが省略され、私的な書簡として使用されます。

大社の義時文書は、「状件の如し」で結ばれるためか、近年の史料集は書下としますが、年紀が無く、また前回も記した通り、私文書的性格が強い内容のため、書状とすべきと考えます。その意味で、③『花押かがみ』が示した「北条義時書状」が、文書の性格を最も言い得た名称といえます。なお、「地頭職停止状」は文書の内容を説明する名称で、古文書学に基づく分類名称ではなく、「寄進状」もこの場合は同様です。

**疑うべき古文書なのか?** さて、⑦瀬野氏は論文のなかで、この文書の内容について検討の必要があるとし、⑧『静岡県史』もそれを踏襲する注記を付します(こうした表記は、少なからず疑いがあることを示します)。しかし私は疑いの無い文書と考えています。父時政を失脚させ、北条家および鎌倉幕府の首班へと躍り出た直後のものとして内容に矛盾はなく、文言などにも特に作為は感じません。

花押はどうでしょう。図1が三嶋大社文書の義時の花押で、図2が後年によく見られる義時花押のひとつです。三嶋大社のものは長細く、なんだか座りも悪いですね。疑いたくなるのはわかります。筆順を見ます。花押によっては、筆をあげ2画・3画と組み合わせないと書けないものもありますが、義時の場合はひと筆で書けそうです。ひと筆とするなら、図3のように筆が進むことになります。図1をみると、かすれたり、筆が行き来する際にぶれていますが、想定する筆順に沿うことが確認できます。図1と図2は筆順上は同じ花押です。筆順に問題無く、後年の花押と異なるバランスをもつこの義時の花押は、彼の前期の花押というべきものです。

源頼朝存命中の義時は、鎌倉殿の親衛隊長というべき任にあり、幕府の事務・行政官ではありませんでした。そのため、その頃の幕府の行政文書に、彼の署判をみられません。父から実権を奪う以前の彼の文書は、偽文書とされる写しが僅かに残るのみです。三嶋大社の義時文書は、年紀を確定できる義時文書のうち現存最古の正文であり、彼の花押の、最も古い形状を確認できる貴重な史料なのです。



図1 三嶋大社文書から  
図2 佐藤進一氏著「花押を読む」より転載  
図3 筆順

(郷土資料館運営協議会委員・奥村徹也／三嶋大社宝物館 学芸員)

## 三島の歴史とジオポイント・24

### —— 竹倉・八王子神社周辺 ——

夏梅木・竹倉の鎮守とされる八王子神社は、三島市街地と玉沢妙法華寺を結ぶ県道142号の箱根山系への登り口、竹倉18番地に鎮座します。元和年間（1615～1624）に建立された通猛寺の守護神とされ、社殿は古墳の上に造営されたと伝えられています。

文化8（1811）年に設置された石鳥居（長岡凝灰岩上部層製、数百万年前に活動した火山の碎屑物が浅海底に堆積したもの。伊豆の国市・北江間産）や、大正12（1923）年4月に奉納された神社名碑（三島溶岩製、約1万年前に富士山から流下したもの。三島市域産）は、共に地山を削平し設置されているため関東地震や北伊豆地震に耐えています。

鳥居前の3基の石燈籠は長岡凝灰岩上部層製ですが地震で倒れたようで、火袋は作り直してあります。丘の上の境内には花崗岩製の撥型燈籠一対と、上部を欠いた長岡凝灰岩上部層製の燈籠があり、ここからは富士山が遠望できます。

神社南西側の沖積地で、昭和10年に鉄分に富む鉱泉が掘削され、竹倉温泉と称し3軒の宿泊施設が開業しました。かつては農閑期の湯治客でにぎわい、裏手を流れる夏梅木川左岸に露出する節理の発達した崖を「屏風岩」と名付け名所としました。

屏風岩は箱根峠北側付近に火口を持つと推定される「箱根火山・海ノ平火山体」（約27万年前）から流下した安山岩質溶岩です。節理の隙間からは各所で湧水が認められ、その滞留時間は約15年と測定されています。

神社の上流域に分布する溶岩は板状節理が発達し、その剥離片は「谷田のヘンコ石」と呼ばれ、三島市内各所で石碑に使用されています。神社北側の路傍には、支那事変・太平洋戦争で徴用された農耕馬を供養する「出征馬供養塔」（昭和17年4月）があり、これもヘンコ石製です。

海ノ平火山体溶岩の上には、約6.5万年前に流下した火砕流（箱根火山新規軽石流）が堆積しており、供養塔右側の露頭で観察できます。

竹倉地区は三島市街地中心部から離れているので、訪れる機会も少ないですが、玉沢妙法華寺の参詣と合わせて、ぜひ当地の散策も楽しんでください。



八王子神社



屏風岩



出征馬供養塔

（郷土資料館運営協議会委員・増島淳）

## 令和3年度 郷土資料館事業報告

## ●企画展

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「新規収蔵品展」	3月20日(土) ～6月6日(日)	安久秋山家文書、戦争関係資料、馬具などの職人道具、古写真・絵ハガキなど、過去3年間に寄贈や購入により収集した収蔵品を紹介した。	9,437人
「三島のはじまり 旧石器～古墳時代」	7月22日(木祝) ～12月19日(日)	市制施行80周年・当館開館50周年を記念し、旧石器時代から、縄文、弥生時代を経て、古墳時代中期にいたるまでの、三島市域の歴史を紹介した。	18,776人
関連事業：講演会2回(うち1回オンライン開催)、郷土教室「古代の暮らし」1回			
パネル展「源頼朝と三島 －伝承をたずねる－」	12月18日(土) ～3月27日(日)	源頼朝は、年少期より20年間流人として伊豆の地で過ごしており、三島市内に語りつがれる頼朝伝承の地を紹介した。	10,601人
「仁和寺と三島 －宮様が結んだ縁－」	1月15日(土) ～3月27日(日)	市制施行80周年・当館開館50周年を記念し、京都の名刹、真言宗御室派 総本山仁和寺の全面的な協力により、小松宮彰仁親王ゆかりの貴重な資料を展示した。	8,112人
関連事業：オープニングセレモニー、オンライン講演会1回			

## ●その他の展示 三嶋曆師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

## ●教室・講座・講演会

	講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数
新規収蔵品	江戸時代の三島宿	5月1日(土)	29人	江戸時代の三島宿	10月16日(土)	38人
	こどもの日体験デー	5月5日(水・祝)	32人	昔のあそび	10月30日(土)	34人
	古代の暮らし	5月29日(土)	77人	楽寿園の自然	11月6日(土)	36人
	昔の暮らし	6月5日(土)	43人	古代の暮らし	11月20日(土)	82人
	昔のあそび	7月3日(土)	大雨で中止	昔のどうぐ	11月23日(火・祝)	102人
	楽寿園の自然	7月11日(日)	22人	わら細工	12月4日(土)	79人
	江戸時代の三島宿	8月7日(土)	中止	機織り体験	1月15日(土)	8人
	楽寿園の自然	8月11日(水)	中止	リリアン編み	1月22日(土)	9人
	江戸時代の三島宿	8月21日(土)	中止	型染め体験	2月5日(土)	中止
	紙漉き体験	8月25日(水)	中止	遊んで学ぼう富士山デー	2月23日(水・祝)	中止
	昔のあそび	9月4日(土)	中止	江戸時代の三島宿	3月5日(土)	中止
	郷土教室実施回数 13回、参加者 591人					
講座	ふるさと講座 「地域の文化財めぐり 徳倉」	12月3日(金)	14人	ふるさと講座 「地域の文化財めぐり 竹倉」	12月17日(金)	10人
	講座名	開催日	人数	講師等		
講演会	企画展関連講演会「弥生時代の三島市内の様子」 事前申込者 計52名 オンライン開催	9月23日(木) ～10月17日(日)	視聴回数 のべ193回	岩本貴氏(伊豆の国市文化財課)		
	企画展関連講演会「前方後円墳と古代伊豆の原像」	11月28日(日)	55人	滝沢誠氏(筑波大学人文社会系)		
	企画展関連講演会「仁和寺と三島 講演会」(Zoom/上映会)	2月26日(土)	のべ53人	瀬川大秀氏(第51世仁和寺門跡)		
その他	ミュージアム・フェスタ	3月5日(土)	28人	三島の歴史や文化、伝統、自然を 楽しみながら学べる体験イベント をボランティアと協働で開催する 予定がコロナの為、規模を縮小し て開催		

## 文化財ボランティア活動

- ◆石造物調査の会 年間9回実施 延べ76人参加(5月・9月は雨天のため中止)  
毎月1回、中島・多呂・北沢地区(完了)長伏地区(継続)
- ◆古文書整理の会 年間11回実施 延べ114人参加  
毎月1回、的場贅川家文書(近世)の整理(継続)

## ●団体見学

16件 729人(市内小学校8件、市外幼稚園1件、その他7件)

## ●資料の収集、保管状況

令和3年度末現在 収蔵資料総数 46,070点(民俗7,546点、歴史37,606点、美術880点、自然38点)  
令和3年度新規受入資料 21件(内訳：寄贈17件、購入4件)

## ●刊行物

「郷土資料館だより」130～131号  
『三島のはじまり 旧石器～古墳時代』(企画展図録)  
『中 鈴木家文書資料集2』(水利・土木、災害・救恤<sup>きうじゆつ</sup>関連文書他)  
『三島の石造物3 中島・多呂・北沢』(中島・多呂・北沢及び隣接する地区の石造物104件を掲載)

## ●令和3年度 開館日数272日 入館者数41,148人

## ●新型コロナウイルス感染症流行による臨時休館、事業中止等

## (1)臨時休館、施設における主なコロナ対策等

8/20(金)～9/30(木) 臨時休館

8/20(金)から9/12(日)までの休館を決定した。その後、9/30(木)まで休館を延長した。

令和2年度から継続して常設の体験メニューやタッチパネル等の使用を中止した。

また、入館者の体温計測、入館者情報の収集を継続している。委託業者による施設の清掃に加えアルコール消毒を行い、業者による作業がない日は職員がアルコール消毒を行った。

## (2)事業の中止等

①郷土教室 8～9月、2～3月の8回を中止

②ミュージアム・フェスタ 10月実施予定のところ、3月に規模を縮小して職員のみで開催

③古文書整理の会 9月の定例会を中止

このように、令和3年度は多くの事業がコロナ禍の影響を受けた。中止せざるをえなかった事業も多くあり、その他の事業も延期や規模縮小、内容変更の上で実施となった。

## 三島市制施行80周年・郷土資料館開館50周年 企画展「仁和寺と三島一宮様が結んだ縁」報告

●開催期間 令和4年1月15日(土)～3月27日(日)

●展示資料数 23点 ●入場者数 8112人

市制施行80周年・当館開館50周年を記念し、現在の市立公園楽寿園の礎を築いた明治時代の皇族、小松宮彰仁親王こまつのみやあきひとに関する企画展を行いました。小松宮が江戸時代末まで、京都の名刹・仁和寺の門跡(住職)をつとめていた縁で実現した企画展で、真言宗御室派の総本山である仁和寺の全面的なご協力により、仁和寺所蔵の小松宮ゆかりの品々を展示することができました。

幕末の動乱期の様子を描いた明治時代の絵巻物「戊辰戦争絵巻」の展示では、白黒で作成されたこの巻物を現在の技術で高精細に再現、カラー彩色した令和版の「戊辰戦争絵巻」も同時に公開したほか、小松宮から仁和寺に下賜されたと伝わる「錦御旗」にしきのみはたなどに注目が集まっていました。

小松宮がここ三島の地に別邸(現在の楽寿園)を築いたことに端を発する三島市と仁和寺の縁を、市民の皆様にご知っていただけた機会となりました。

## ●関連事業

①オープニングセレモニー(テープカット、展示解説ほか/招待者10名出席)

令和4年1月15日(土) 10:30～/来賓・列席：仁和寺執行長・吉田正裕氏、三島市長、教育長

②講演会(オンライン開催及び当館内での上映会/オンライン参加者数32名、上映会参加者数21名)

令和4年2月26日(土) 13:45～15:00 /講師：第五十一世仁和寺門跡・瀬川大秀氏



## 寄贈・購入資料の紹介

令和3年11月から令和4年5月までに、次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

### ●寄贈資料

寄贈者	資料名	点数
個人	古写真(戦前の夏祭り)、『明治大帝御聖徳御写真帖』	2点
内田恵子氏	米店関係資料(枡、米差しなど)	5点
鈴木保氏	地域史関係資料一式、絵葉書(伊豆、富士山ほか)一式	2件
商工観光課	2020東京オリンピック・パラリンピック関係資料一式、ラグビーワールドカップ2019日本大会関係資料(サイン入りユニフォーム等)	2件
村上益男氏	ムラカミ及び市ヶ原商店街関係資料(抽選箱、消防団関係資料、看板、ポスター、慰問袋、奉公袋、洋品類、提灯ほか)	一式
岡本建二氏	清住緑地関係資料(自然観察記録写真40点、ファイル4点など)	45点



ラグビーワールドカップ2019の日本代表ヘルウヴェ選手のサイン入りユニホーム



三島で事前合宿を行った東京2020オリンピックの男子バレーボール・アメリカ代表チームの選手たちによるサイン色紙

### ●購入資料

#### ●太宰春台著『紫芝園漫筆』上巻(一・二・三巻合本)

太宰春台(延宝8年～延享4年、1680～1747)は江戸中期の儒学者・経世家で、「紫芝園」は彼の号です。経世とは「経世済民(世を経め民を済う)」つまり今でいう政治学のような学問です。この本自体は全国に流通し広く読まれた書物であり、とくに三島に関係のある内容ではありませんが、今回購入の一冊は三島宿裏町(東海道の本一北の通りで、現在の「平安鎌倉古道」沿い)で横山塾を開いていた横山玄与が所蔵していたものであったことが購入の決め手となりました。

江戸時代の三島には多くの私塾があり、漢学や儒学が学ばれていたことはわかっていますが、教材や講義内容など多くのことがわかっていません。江戸時代の民間教育が明治時代以降の地域の教育や発展の礎になったとも考えられることから、このような教育資料も地域の歴史を考えるうえでは貴重な資料になります。



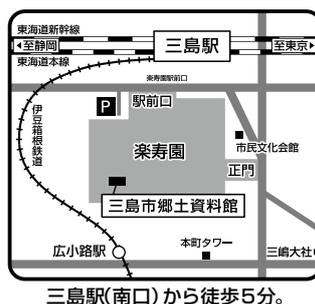
上：表紙  
下：横山玄与の蔵書であったことをしめす印

### ●令和4年度職員紹介

館長 芦川忠利 職員 水口政美 柿島綾子 笹山曜子 保科桃子 よろしくお祈りします。

### 郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045  
開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)  
午前9時～午後4時30分(11月～3月)  
休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、  
年末年始  
入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途  
300円がかかります。15歳未満は無料、  
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

### 郷土資料館だより

Vol.45 No.1(第132号)

発行日 令和4年7月15日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

